

国名 ナイジェリア	女性の生活向上のための女性センター活性化支援プロジェクトフェーズ2
--------------	-----------------------------------

I 案件概要

事業の背景	<p>ナイジェリアにおいては、成人識字率や所得等のジェンダー格差が深刻であった。女性が世帯やコミュニティにおいて意思決定に参加することは限られており、包括的なエンパワーメントが必要とされていた。「農村女性のためのベターライフ・プログラム」の下、全国に女性センター（WDC）が設立され、職業訓練や基礎的な識字教育を通じて草の根レベルの女性のエンパワーメントを目指していた。また、「農村女性のためのベターライフ・プログラム」に基づき構想された国立女性開発センター（NCWD）が1992年に設置された。当時、WDCは女性の能力向上に貢献していたが、1990年代後半以降、不適切な運営とステークホルダーのコミットメントの欠如から、WDCの大部分は機能しなくなり、放置されたセンターもあるなど、適切なサービスを提供できなくなっていた。</p> <p>NCWDとJICAは、技術協力プロジェクト「女性の生活向上のための女性センター活性化支援プロジェクト」（WDC活性化プロジェクト・フェーズ1）（2007年～2010年）を実施した。同事業は、ナイジェリア全体における女性のエンパワーメントを念頭に、カノ州におけるパイロット活動の経験をもとにWDC活性化のためのガイドラインを開発することを目指していた。2010年、ナイジェリア政府は、フェーズ1で達成された成果（WDCの活性化、WDCに通う女性のエンパワーメント）を全国に普及し拡大するため、JICAに対し、フェーズ2の実施を要請した。</p>										
事業の目的	<p>NCWDのWDC活性化推進・監督能力の向上、NCWDと州女性社会開発省（SMWA）の連携の下での対象州におけるWDC活性化パイロット活動の実施、パイロット活動の経験を踏まえたNCWD及びSMWA、女性開発オフィサー（WDO）向けのWDC活性化マニュアルの共有を通じ、連邦レベルのWDC活性化モデルの拡大を図り、もってWDC活性化モデルの連邦及び州レベルでのより広範な拡大とWDC活性化を通じた世帯及びコミュニティでの女性のエンパワーメントの向上を目指す。</p> <p>上位目標：1. 女性センター活性化モデルが連邦及び州レベルでより広範に拡大される。 2. 女性センター活性化を通じて、世帯及びコミュニティで女性のエンパワーメントが向上する。</p> <p>2. プロジェクト目標：対象州におけるWDC活性化を通じ、連邦レベルで活性化モデルが拡大する。</p>										
実施内容	<p>1. 事業サイト：アブジャ及び対象6州（アナンブラ、クロスリバー、カドゥナ、カノ、クワラ、ナイジャ）、各州3地方行政区（LGA）とWDC</p> <p>2. 主な活動：(1) ニーズ・アセスメント、啓発教材とデータベースの開発、啓発キャンペーン等、(2) 対象SMWAとWDOに対する活動計画策定ワークショップ、活動計画に基づいたWDCのサービスの質向上のための技術訓練、SMWAとWDOを対象としたマネジメント研修、SMWAとWDOに対する研修実施支援、ステークホルダー会議、啓発等のパイロット活動、(3) グッドプラクティス及び教訓の収集、カノ州（フェーズ1でも支援）におけるWDCのフォローアップ調査、NCWD・SMWA・WDO向けマニュアルの作成、作成されたマニュアルの活用に関する全国ワークショップ、WDC活性化と全国女性評議会/連邦女性社会開発省で作成したマニュアルに関するワークショップ、等</p> <p>3. 投入実績</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">日本側</td> <td style="width: 50%;">相手国側</td> </tr> <tr> <td>(1) 専門家派遣 13人</td> <td>(1) カウンターパート配置 26人</td> </tr> <tr> <td>(2) 研修員受入 20人（本邦）</td> <td>(2) ローカルコスト 選定されたWDCへの機材配布、</td> </tr> <tr> <td>(3) ローカルコスト負担 活動費、機材、研修等</td> <td>研修実施等</td> </tr> </table>			日本側	相手国側	(1) 専門家派遣 13人	(1) カウンターパート配置 26人	(2) 研修員受入 20人（本邦）	(2) ローカルコスト 選定されたWDCへの機材配布、	(3) ローカルコスト負担 活動費、機材、研修等	研修実施等
日本側	相手国側										
(1) 専門家派遣 13人	(1) カウンターパート配置 26人										
(2) 研修員受入 20人（本邦）	(2) ローカルコスト 選定されたWDCへの機材配布、										
(3) ローカルコスト負担 活動費、機材、研修等	研修実施等										
協力期間	2011年2月～2015年2月	協力金額	（事前評価時）360百万円、（実績）351百万円								
相手国実施機関	国立女性開発センター（NCED）、対象6州の州女性開発省（SMWA）										
日本側協力機関	オーピーシー株式会社										

II 評価結果

【評価の制約】

・訪問調査を行わなかった州からのデータ収集は、ナイジェリアにおける事業評価プロセスにおいて困難であった。これは、州政府が縦割り構造であり、かつ複数レベルにわたる手順を踏む必要があるためである。記入された質問票は内容確認を受け、発出許可が下り、提出されるまでに、いくつかの段階を経る必要があり、データ収集プロセスの遅延を招いた。しかし、訪問調査を行った州では、関係機関は事後評価チームが面談に訪れることを知っており、質問票の回答は期日通りに提出された。

【留意点】

・事業効果の継続の評価を補完する情報として、対象州において、パイロットLGAにおけるWDC活性化モデルの実施状況と対象外のLGAへのモデルの拡大状況を確認する。

・上位目標2の指標は「社会・経済参加率」となっている。「参加率」を定義し調査するのは困難であるため、上位目標2は定性的に評価を行う。

1 妥当性

【事前評価時・事業完了時のナイジェリア政府の開発政策との整合性】

ナイジェリアの長期開発政策である「ビジョン2020」では、ジェンダーに関し、法的枠組みの推進、暴力対策のガイドラ

イン作成、国・州レベルでのナショナル・マシーナリー（男女共同参画を推進する組織機構）の強化等、さまざまな取り組みを挙げている。また、「国家ジェンダー政策」（2006年）では、ジェンダー全体の目標として、ジェンダー平等と持続可能な人的・経済的開発を推進することとしている。同政策では、NCWDは女性のエンパワーメントに関するプログラムを計画・実施する機関と定義されている。これらの政策は事前評価時、事業完了時いずれの時点においても有効であった。

【事前評価時・事業完了時のナイジェリアにおける開発ニーズとの整合性】

ナイジェリアでは、事前評価時、事業完了時いずれの時点においても、教育、資本、労働、起業スキル等への女性のアクセスが制限され、多くの女性が経済発展の恩恵を受けられずにおり、この課題に取り組むため、WDCを活性化することが求められていた。

【事前評価時における日本の援助方針との整合性】

日本の対ナイジェリア援助方針においては、2007年の経済協力政策協議において確認された6つの優先課題の1つであるジェンダーに焦点をあてており、日本の援助方針に合致していた¹。

【評価判断】

以上より、本事業の妥当性は高い。

2 有効性・インパクト

【プロジェクト目標の事業完了時における達成状況】

事業完了時において、プロジェクト目標は達成された。NCWDは、4つの側面からなるWDC活性化モデルを対象州以外の6州に拡大した。4つの側面は以下の通りである。(1)WDCにおけるサービスの質の向上、(2)WDCに対する肯定的認識の向上、(3)WDC運営の向上、(4)関連機関との協力の向上。

【プロジェクト目標の事後評価時における継続状況】

事後評価時において、事業の効果は一部継続している。WDC活性化モデルの他州への拡大が継続している（下表参照）ことから、プロジェクト目標指標の達成状況は継続しているといえるが、州内でのモデルの拡大が限定的であることに鑑み、効果継続状況は部分的と判断した。対象6州のうち回答を得られた5州において、WDC活性化モデルに基づいた活動（研修・スキル開発、報告書作成、啓発等）の少なくとも一部は全てのパイロットWDCで引き続き実施されている。NCWDは、WDC活性化モデルをさらに拡大するための取り組みを行っている。このように州レベルでみると、事業効果は継続しているといえるが、LGAレベルでみると、対象州内でのモデル拡大は限られている。すなわち、対象州のうち、対象LGA以外でモデルを採用したLGAがあるのは、アナンプラ州とカドゥナ州のみである。対象外のLGA²でモデルを採用しなかった州は、その理由として、資金不足、人材不足、及び機材がないことを報告している³。NCWDは、本事業でNCWD、SMWA、WDO向けにそれぞれ開発したマニュアルを承認し、州に配布した。訪問した州では、モデルを採用する初期段階でマニュアルが利用されたことを確認したが、これらマニュアルは分量が多すぎるため、日常業務や自習で活用するには不便であるということであった。NCWDは、マニュアルをさらに印刷し他のLGAに配布することを希望しているが、追加の印刷費用に充てる資金が得られていない。

【上位目標の事後評価時における達成状況】

事後評価時点までに、上位目標はおおむね達成された。上位目標1に関しては、2018年時点で、NCWDはWDC活性化モデルを新たに対象外の12州に拡大した。12州は、地政学的区分に基づく6ゾーンを踏まえ選定された。まだモデルを採用していない州については、その理由として、資金的な問題があることや州政府のコミットメントが低いことが挙げられる。NCWDは、モデルを急激に拡大することはできないが、獲得できた予算に応じ徐々に拡大を図っている。訪問した州の1つでは、モデルに基づき積極的に研修を実施していた。上位目標2に関しては、対象州での面談者（SMWA、WDC等）は全員、女性のエンパワーメントに多くの正のインパクトがあったと述べていた。面談した研修参加者も、モデルに則った研修を評価していた。

【事後評価時に確認されたその他のインパクト】

本事業による負のインパクトは認められなかった。ジェンダーに関する正のインパクトとしては、既述の女性への正のインパクトに加え、訪問した2州の全てにおいて、面談者は、家計収入が向上したことから男性は妻の活動を積極的に応援しており、男性と女性の関係が向上していると指摘している。また、一部の面談者は、男性の中には自分がWDCでスキルを習得することを希望する者までおり、以前より男性が女性を尊重するようになったことを挙げた。報告されたその他の正のインパクトには、成人女性の識字率の向上、融資へのアクセス、育児における保健衛生習慣の向上、個人の衛生習慣の向上、離婚の減少、食物・調理・栄養の向上等がある。

【評価判断】

よって、本事業の有効性・インパクトは高い。

プロジェクト目標及び上位目標の達成度

目標	指標	実績
プロジェクト目標 対象におけるWDC活性化を通じて連邦レベルでWDC活性化モデルが拡大化する。	対象州以外の4州でWDC活性化モデルが採用される。	達成状況：達成（継続） （事業完了時）NCWDは、WDC活性化モデルを対象州以外の6州に拡大した。アダマワ、エキティ、ゴンベ、オヨ、エボニ、ザンファラの6州である。モデルに基づきマネジメント研修が実施された。 （事後評価時）※上位目標の指標1を参照。
上位目標 1. 女性センター活性化モデルが連邦及び州レベルでより広範に拡大される	対象州以外の7州でWDC活性化モデルが採用される。	（事後評価時）達成 2018年時点で、対象州以外で新たに12州が本事業のモデルを採用した。
2. 女性センター活性化	対象州において女性の社	（事後評価時）おおむね達成

¹ 外務省「ODA国別データブック」（2011年）

² 原則として、各LGAにWDCが1か所ある。対象州のLGA/WDCの数は、16（クワラ州）から35（カノ州）の幅がある。そのうち、対象外のLGAでモデルを採用したLGAの数は、アナンプラ州で9、カドゥナ州で1である。

³ アナンプラ州は、州政府からモデル拡大の支援が得られたため、モデルを拡大することができたと考えられる。

<p>を通じて、世帯及びコミュニティでの女性のエンパワーメントが向上する。</p>	<p>会・経済参加率が上昇する。 (代替指標) 女性の社会的・経済的参加を示す定性的情報</p>	<p>インタビューで指摘されたWDCのインパクト</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="635 76 715 165">アナンブラ</td> <td data-bbox="719 76 1514 165">卒業者の女性は機材と初期費用の融資を与えられたことで、十分に能力を向上させることができた。少額の資本金でも事業を立ち上げることができた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 172 715 262">クロスリバー</td> <td data-bbox="719 172 1514 262">女性のエンパワーメントが向上した。女性は自ら生計を支えることができるようになり、トレーニングを受けた者は、パン焼き器、ヘアドライヤー、発電機材等を供与され、卒業後に起業する際に役に立った。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 268 715 329">カドゥナ</td> <td data-bbox="719 268 1514 329">SMWA から女性にマイクロファイナンスが提供された。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 336 715 454">カノ</td> <td data-bbox="719 336 1514 454">WDC でスキルを習得した結果、女性がより社会的になり、自立した。家計の収入に貢献できるようになり、子どもを学校に行かせることができた。また、子どもを病院に連れていけるようになった。識字クラスにより、コミュニケーションや知識が向上した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 461 715 490">クワラ</td> <td data-bbox="719 461 1514 490">情報が得られなかった。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="635 497 715 544">ナイジャ</td> <td data-bbox="719 497 1514 544">女性が活動的になり、政治的な点からもエンパワーされている。虐待が起こった時などに自分の意見を言える。</td> </tr> </table>	アナンブラ	卒業者の女性は機材と初期費用の融資を与えられたことで、十分に能力を向上させることができた。少額の資本金でも事業を立ち上げることができた。	クロスリバー	女性のエンパワーメントが向上した。女性は自ら生計を支えることができるようになり、トレーニングを受けた者は、パン焼き器、ヘアドライヤー、発電機材等を供与され、卒業後に起業する際に役に立った。	カドゥナ	SMWA から女性にマイクロファイナンスが提供された。	カノ	WDC でスキルを習得した結果、女性がより社会的になり、自立した。家計の収入に貢献できるようになり、子どもを学校に行かせることができた。また、子どもを病院に連れていけるようになった。識字クラスにより、コミュニケーションや知識が向上した。	クワラ	情報が得られなかった。	ナイジャ	女性が活動的になり、政治的な点からもエンパワーされている。虐待が起こった時などに自分の意見を言える。
アナンブラ	卒業者の女性は機材と初期費用の融資を与えられたことで、十分に能力を向上させることができた。少額の資本金でも事業を立ち上げることができた。													
クロスリバー	女性のエンパワーメントが向上した。女性は自ら生計を支えることができるようになり、トレーニングを受けた者は、パン焼き器、ヘアドライヤー、発電機材等を供与され、卒業後に起業する際に役に立った。													
カドゥナ	SMWA から女性にマイクロファイナンスが提供された。													
カノ	WDC でスキルを習得した結果、女性がより社会的になり、自立した。家計の収入に貢献できるようになり、子どもを学校に行かせることができた。また、子どもを病院に連れていけるようになった。識字クラスにより、コミュニケーションや知識が向上した。													
クワラ	情報が得られなかった。													
ナイジャ	女性が活動的になり、政治的な点からもエンパワーされている。虐待が起こった時などに自分の意見を言える。													

出所：業務完了報告書、NCWD、SMWA、訪問2州であるカノ州・ナイジャ州 SMWA 職員、同州内 WDO、WDC 校長に対する質問票・インタビュー

訳注：上位目標の指標は、既存報告書等にて和文の指標名が記載されていないため、本事後評価時に仮訳した。

3 効率性

事業費（計画比：98%）、事業期間（計画比：100%）とも、計画内に収まった。本事業のアウトプットは計画通り産出されている。よって、効率性は高い。

4 持続性

【政策制度面】

「国家ジェンダー政策」（2006年）は、時間の経過とともに、当初含まれていなかったさまざまな課題、例えば、過激派や爆破の活動に利用される若い女性の問題等が発生していることから、事後評価時点で見直しを行っている。州レベルでは、事後評価時点において、一部の州では、州政府による支援のための政策、計画、制度を制定している。例えば、アナンブラ州の「支援が届きにくい地域（河川地域）における技術センター設置のための10か年プログラム」（2014年～2023年）があるが、こうした政策等がない州もある。一部の州・LGAでは、執行部レベルがジェンダー問題に優先度をおいていないため、予算を含む必要な支援を得るのが難しくなっている。

【体制面】

女性のエンパワーメントとWDCの活性化・実施運営に係る組織体制は、事業完了後も変更がない（連邦レベルではNCWD、州レベルではSMWA、LGAレベルではLGA/WDOとWDC/WDC校長（HOC））。LGAレベルでは、WDCの活動全体については、WDOとHOCが管理・監督を行い、トレーニング/授業は、講師が運営・実施を行う。一部のWDCでは、講師の数（WDCあたり3～5人）が十分でないが、予算不足によりこれ以上は雇用できないということである。

【技術面】

NCWDによれば、連邦・州・LGAの各レベルにおいて、本事業による効果を継続させるために必要なスキル（NCWDにおける監督・モニタリング・リーダーシップ・調整、SMWAにおける啓発・能力強化、LGA/WDOとWDC/HOCにおける運営管理・リーダーシップ・調整）を有している。NCWDでは、本事業で開発されたWDC活性化データベースのメンテナンスを行っており、州に対して、マニュアルを提供し、研修・ワークショップを実施している。また、NCWDは、不定期に州を訪問し、活動の評価とさらなるアセスメントを行っている。州は、連邦レベルが州に行った研修をLGAレベルに対して研修する伝達講習を実施している。本事業で研修したスタッフの一部が離職したが、一部の州では、事業期間中の担当者から後任者への適切な引き継ぎが行われていないと見受けられた。また、先に述べた通り、本事業で作成したマニュアルは、分量が多いため、予定した通りには活用されていない。

本事業でパイロットWDCに供与した機材の大部分は、良好な状態にある。ただし、ナイジャ州では、編み機やミシン等の一部が破損し使用されていない。このため、過去6か月にわたり編み物のクラスが開講されていない（ミシンはまだ使える状態のものもあり、裁縫のクラスが実施されている）。WDOによれば、修理のためのスペアパーツが地元で入手できないということである。

【財務面】

NCWDによれば、WDC活性化モデルを対象外の州に拡大するための予算は、ここ数年非常に限られている。これには、2015年以降の原油価格下落に端を発するマクロ経済の落ち込みの影響もあると思われる。NCWDは予算枠を拡大する努力はしているものの、見通しは不透明である。LGAの職員の多くは、この事業にどの程度の予算があるのかを承知していない。ただし、NCWD、各州は、上述のようにモデルの拡大・WDC活動の継続のための最低限の予算は確保している。

【評価判断】

本事業によって発現した効果の持続性は中程度である。

5 総合評価

本事業は、WDC 活性化モデルを対象外の州に拡大するというプロジェクト目標を達成し、拡大をさらに進め女性のエンパワーメントを向上させるという上位目標をおおむね達成した。他方、対象州内での対象外 LGA へのモデル拡大は限定的であった。持続性に関しては、政策的支援が不透明であること、モデル拡大のための人員・予算が十分でないことにより、政策

WDC 活性化モデル実施・拡大のための予算（単位：ナイジェリア・ナイラ）

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
NCWD				
-国家予算	25,000,000	67,880,655	130,597,150	100,597,150
アナンブラ州	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000
クロスリバー州	N/A	8,000,000	6,000,000	8,000,000
カドゥナ州	N/A	8,000,000	6,000,000	8,000,000
カノ州	N/A	8,000,000	6,000,000	8,000,000
クワラ州	N/A	8,000,000	6,000,000	8,000,000
ナイジャ州	N/A	8,000,000	6,000,000	8,000,000

出所：NCWD

面、体制面、技術面、財政面で若干の問題が見られた。しかしながら、連邦・州・LGA の各レベルで、女性のエンパワーメントと WDC 活性化のための組織体制ができ必要なスキルが習得されている。以上より、総合的に判断すると、本事業の評価は非常に高いといえる。

III 提言・教訓

実施機関への提言：

- ・WDC に対するモニタリング・評価を向上させること。NCWD は、定期的にもたより頻繁に（例えば、2、3 か月おき）現地訪問を行うことが望ましい。WDC は、直接観察を行っていることが分かれば、より積極的に活動を行う可能性がある。
- ・州に対し、ジェンダー問題に関する意識を高める啓発活動をさらに行うこと。NCWD は、州政府とキーパーソンに対して、啓発のための訪問やワークショップ等を実施し、州におけるジェンダーに関する活動を向上させ、州全体の成長や開発にどの程度ジェンダーの要因が貢献するかを協議し強調することが望ましい。
- ・WDC 向けのマニュアルは、利用者がより使いやすく持ち運びしやすい、簡素化したバージョンを作成すること。NCWD が、現行マニュアルを改訂し、文章を改編し簡素化して、読みやすく持ち運びしやすい資料/ブックレットにすると使いやすくなる。現地調査で訪問した州の計 5 か所の LGA のうち、マニュアルがあったのは 1 か所のみであった。
- ・現地調査を実施した 2 州では、供与された機材の状況が大きく異なっていた。一つの州では何の問題も無く全ての機材が現在でも使用されている一方で、別の州においては、いくつかの機材が壊れ、部品が調達できず修理するすべも無いまま放置されていた。使用されていない機材がある場合、その原因を確認し、使用可能な状態にする支援をすることが望ましい。例えば、修理に必要なスペアパーツが大都市でしか手に入らない場合、NCWD が調達し配送することが可能であろう。また、他州との情報共有ができるようなメカニズムを構築し、維持管理に成功している州を参考とすることが出来るような配慮をすることで、機材を継続して使用できる可能性を高めることが期待できる。

JICA への教訓：

- ・詳細でページ数の多いマニュアルは、現場レベルでの継続的な活用の観点から鑑みれば、必ずしも最適であるとは限らない。簡略版マニュアルと併用することで、より効果的な活用が期待できる。
- ・ナイジェリアのような国で将来評価を行う場合、現地調査を行わずに質問票を送付するのみでは必要な情報を収集することはできない。全ての州を実際に訪問できる現地コンサルタントを雇用することを推奨する。それにより、州レベルからの情報提供と情報の照合が迅速に行えると考えられる。

DAY	8:00-9:00	9:00-10:00	10:00-11:00	11:00-12:00	12:00-1:00	1:00-2:00	2:00-3:00	3:00-4:00	4:00-5:00
MONDAY	A 002	C 001	D 003	E 007	F 004	G 005	H 006	I 008	J 009
TUESDAY	B 001	D 004	E 001	F 002	G 005	H 006	I 007	J 008	K 009
WEDNESDAY	L 004	M 004	N 001	O 001	P 002	Q 002	R 002	S 002	T 002
THURSDAY	U 003	V 001	W 001	X 001	Y 001	Z 001	AA 001	AB 001	AC 001

カノ州（対象州）WDC の活動スケジュール表



オグン州（対象外の州でモデルを採用）の WDC でターバン（ゲレ）の巻き方とメーキャップの練習をしあう生徒たち